

はじめに

前回、連載第19話では、当連載のフィールドに立地する、大阪ガス実験集合住宅NEXT21の第3フェーズ居住実験の一環として展開している「U-COROプロジェクト」※1の折り返し点に立つて作成した、一冊のツールにスポットを当てた。そのツール『上町台地つながりのスタイルブック』では、U-COROプロジェクトの第1回から第9回のプログラムを一冊(60ページ)(※2)に再編集して提示

然・環境の再生」という大テーマも、第1回から第9回のプログラムも、そこで紹介しているさまざまな活動や関心も、決してばらばらに存在しているものではなく、つながり合って地域や暮らしを形づくっているものであるというところに気づかされる。そして、それぞれのつながりを意識し合っていくことによって、地域の力はいっそう高まっていくであろうという予感とビジョンを、分かち合うことができる。ツールはそうした意識と行動のダイナミズムを媒介するメディアの一つといえる。

今回、連載第20話では、上町台地ならではのつながり

弘本 由香里

Written by Yukari Hiromoto

 大阪・上町台地発
 都心居住文化の創造へ
 (第20話)

 つながりのスタイルを媒介する、
 コミュニティグリートの可能性

している。そこには、プログラムに関わった方々が、時間軸、空間軸、関心軸を往き来する視点を得、新たなつながりを実感し、視野や可能性の広がりを目撃し、自ら物語ることができるツールとなればとの願いが込められている。

一冊のツールが開く可能性として、人と人、人とまちの関わりを豊かにしていく、上町台地ならではのつながりのスタイルのダイナミズムにふれた。個々のプログラムを越えて、全体像を眺める視点を得ること、U-COROプロジェクトの柱としている「地域文化の再発見」「多世代・多文化の共生」「減災文化の創造」「自

りのスタイルのダイナミズムを媒介する、もう一つの重要なメディアに着目したい。それは、上町台地を特徴づける「緑」の存在である。

上町台地を特徴づける「緑」の存在

上町台地の歴史は古い。当連載第17話で上町台地の成り立ちにふれているが、今から約6千年前には、既に海に突き出した半島のような台地の原型があったとされる。それからどれほど多くの生き物たちが命のドラマを繰り

上町台地 コミュニティグリーン 探訪マップ

このマップは、航空写真から読み取ったもので(特徴的な緑をドット(点)で表しています)。状況とは異なるところも若干あります。ただ、細かく見ていくと、みなさんが日々を過ごされているお近くで、通りからは見えない裏庭や中庭、書庫の目録に載らないビルの屋上などに樹木があることに気づくかもしれません。マップを片手に歩いて、まちなかの身近な緑と出会い、戯れ、遊ばせてあげませんか。



北大江公園
中大江公園

北大江・中大江界隈
難波などで街並みは変わったが、秀吉の大坂城築城時に開かれたまちであり、上層階に持ち主の住居や事務所があるオーナービルが多い。そのため視線を上げると、屋上や上層階のベランダなどの緑が目に入る。

枝葉が影成すベンチに、
楽しき幻影を見た



空堀商店街界隈

空堀商店街界隈
長屋再生や「からはりまちアート」でその名が広まった空堀商店街界隈。跡地と長屋のまちは緑が少なそうに見えるが、玄関先に並ぶ店舗、長屋の坪庭、大家さん宅の庭、ご神木など住み手と歩んできた緑が多い。

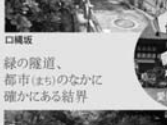
中寺界隈
松原町筋に近いほど緑が少なくなるが、南北に並ぶ中寺の寺町と高津宮は、緑の島を形作っている。お寺の境内には本堂より周丈の高いイチョウや桜などもあり、高層ビルが少くない通りでは遠くから見える。



上本町駅周辺

上本町駅周辺
難波に開通した平日前通の街頭樹は、枝がかなり広がって、夏には大通りを覆う緑のトンネルのよう。ビルの谷間に残る戸建て民家の表庭や裏庭の緑も案外多い。

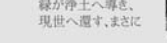
午後5時の坂の木々は優しい、
ゼイゼイと登る人に



下寺町界隈

下寺町界隈
上町台地の西側に沿ってお寺が並ぶ下寺町。南側に残っている境内の木々もきれいだ。さらに奥にある霊地の跡は、南北に100mほど、口饅頭や染染坂など有名な坂が緑の帯を切っている。

緑が浄土へ導き、
現世へ還す、まさに



大川橋
水都大阪の復興に向けて整備されたばかりの八軒家浜は、植栽もまだ小さいが、対岸は通り抜けへと続く桜並木の端。大川屈しの眺めは、桜の時期はもとより、初夏の新緑、秋の紅葉も美しい。

大阪ビジネス・パーク(OBP)
超高層ビルが建ち並ぶOBPも意外に緑が多い。街路樹、公開空地の植栽、途中階の屋上に設けられた緑のスペースなど、多様な人工の緑が見られる。街路樹から四季折々が経ち、木々の生長も美しい。

中道・中本界隈
道が複雑に入り組んだまちには、マンションや事業所などに混じって、鎮守の森と旧村がある。庭のある屋敷にはきれいに剪定された庭木が繊細に見える。真ん中を流れる平野川の堤防にも緑は多い。

東成区役所周辺
鶴城長街道が通る地域は、中川の事業所周辺に設けられた緑が目に入る。公園の木々も大木が多く、それぞれ小さながらも緑の印象を与えている。

玉造・上町界隈
中央大通と長堀通に挟まれた地域は、平日も閑静。広大な難波宮前公園の印象が強いが、公園住宅や学校園など日々の暮らしに身近な緑も色濃く、特に大阪女学院の植栽は大樹の蔭の影がある。

清水谷界隈
NEXT21から玉造駅にかけての地域は、空や清水谷といった谷筋が通る起伏に富んだ地域。坂から見上げた、見おろしたりするとビルの屋上や崖地の地味な色合いなどこの緑も見つけやすい。

桃谷界隈
JR桃谷駅からコリアタウンへ伸びる界隈は密集市街地だが、裏庭の緑が案外多い。また、宗栄神社や御幸森天神宮のこじんまりした鎮守の森も良い。また、宗栄神社周辺には旧村の屋敷庭も見られる。

五条界隈
上町台地の良好な住宅地の一つである五条界隈。そのイメージを担うお屋敷群には庭木も多いほか、草花で軒廻りをきれいに飾った家も見られる。また、学校や高層など大規模植栽の植栽も彩りを添えている。

勝山界隈
このあたりも住宅が密集しているが、鶴城長街道の本通から続く道沿いには数家の名残の大きな家も。また、公民館などでの屋上緑化も目に入る。

寺田町駅周辺
JR環状線の車窓からも見える南公園の大木群は、枝を払われて小町になったが、ご神木や学校の植栽など大木や高木が結構見られる。

緑が織りなす静と動、(静)と(動)

●は航空写真から読み取った特徴的な緑
●印は、今回展示のための訪れた新たなポイント

広がってきたことか。上町台地界隈に点々と連なる緑は、いわば長い長い時を重ねて受け継がれてきた命の揺りかご、命の止まり木といってもよいだろう。
改めて現在のまちに目を向けてみると、北の大阪城公

園から南の天王寺公園のまとまった緑地、街区公園の数々の緑、特徴ある街路樹、谷筋や崖地に張り付く斜面林、集積する神社や寺院の庭、学校や病院の緑、町家・長屋の前栽や軒先園芸と、緑の営みの歴史は都市化の波に洗われ

図1 上町台地の特徴的な緑を紹介する「上町台地コミュニティグリーン探訪マップ」航空写真から読み取った特徴的な緑をドット(点)で表している(展示リーフレット「U-CoRo 独案内11」から)

ながらも、まちのそここに受け継がれ、東西南北に連なつて、緑の回廊を成している。実は、実験集合住宅NEXT21の緑地も、上町台地界隈の緑の回廊につながるようにとの考えのもとに、当初から設計されている。

U-COROPプロジェクトでは、第11回目のウインドウ・エキジビション(2010年6月1日~9月10日)で、「日常の楽園上町台地コミュニティグリーン紀行」(※3)をテーマとし、上町台地ならではの身近な緑との交わりの醍醐味を伝えている。同展から、まず上町台地界隈を特徴づける緑の存在について、実際にたずねて実感する魅力にふれた簡単な解説コメント(※4)を抜粋し紹介しておく。緑の姿を通してまちの歴史と生活文化が浮かび上がってくる(図1)。

■大川端

水都大阪の復興に向けて整備されたばかりの八軒家浜は、植栽もまだ小さいが、対岸は通り抜けへと続く桜並木の堤。大川越しの眺めは、桜の時期はもとより、初夏の新緑、秋の紅葉も美しい。

■北大江・中大江界隈

震災などで街並みは変わったが、秀吉の大坂城築城時に開かれたまちであり、上層階に持ち主の住居や事務所があるオーナービルが多い。そのため視線を上げると、屋上や上層階のベランダなどの緑が目に入る。

■空堀商店街界隈

長屋再生や「からほりまちアート」でその名が広まった空堀商店街界隈。路地と長屋のまちは緑が少なそうに見えるが、玄関先に並ぶ盆栽、長屋の坪庭、大家さん宅の庭、ご神木など住み手と歩んできた緑が多い。

■中寺界隈

松屋町筋に近いほど緑が少なくなるが、南北に並ぶ中寺の寺町と高津宮は、緑の島を形づくっている。お

寺の境内には本堂より背丈の高いイチヨウや桜などもあり、高層ビルが少ない通りでは遠くから見える。

■上本町駅周辺

戦前に開通した千日前通の街路樹は、枝がかなり広がって、夏には大通りをも覆う緑のトンネルのよう。ビルの谷間に残る戸建て民家の表庭や裏庭の緑も案外多い。

■下寺町界隈

上町台地の西崖に沿ってお寺が並ぶ下寺町。堀越しに見える境内の木々もきれいだ、さらに奥にある崖地の緑は、南北に1km続いて圧巻。口繩坂や愛染坂など著名な坂が緑の帯を横切っている。

■寺田町駅周辺

JR環状線の車窓からも見える南公園の大木群は、枝を払われて小振りになったが、ご神木や学校の植栽など大木や高木が結構見られる。

■五条界隈

上町台地の良好な住宅地の一つである五条界隈。そのイメージを担うお屋敷群には庭木も多いほか、草花で軒回りをきれいに飾った家も見られる。また、学校や病院など大規模施設の植栽も彩りを添えている。

■清水谷界隈

NEXT21から玉造駅にかけての地域は、空堀や清水谷といった谷筋が通る起伏に富んだ地域。坂から見上げたり、見下ろしたりするとビルの屋上や崖地の植栽など意外なところの緑も見つけやすい。

■玉造・上町界隈

中央大通と長堀通に挟まれた地域は、平日も閑静。広大な難波宮跡公園の印象が強いが、公営住宅や学校園など日々の暮らしに身近な緑も色濃い。特に大阪女学院の植栽は大樹の森の観がある。

■鶴橋国際市場

密集した建物群を縫うように、商店が軒を連ねる細い通りが縦横に走り、一見緑はないように見えるが、通りからは見えない裏庭に高木のある家がかなりある。

■桃谷界限

JR桃谷駅からコリアタウンへ伸びる界限は密集市街地だが、裏庭の緑が案外多いほか、弥栄神社や御幸森天神宮のこじんまりした鎮守の森もよい。また弥栄神社周辺には旧村の屋敷庭も見られる。

■勝山界限

このあたりも住宅が密集しているが、鶴橋国際市場の本通りから続く旧街道沿いには農家の名残の大きな家も多い。また、公共施設などでの屋上緑化も目に留まる。

■東成区役所界限

暗越奈良街道が通る地域は、中小の事業所周辺に設けられた緑が目に残る。公園の木々も大木が多く、それぞれ小さいながらも緑濃い印象を与えている。

■中道・中本界限

道が複雑に入り組んだまちには、マンションや事業所などに混じって、鎮守の森と旧村がある。蔵のある屋敷にはきれいに剪定された庭木が堀越しに見える。真ん中を流れる平野川の堤脇にも緑は多い。

■大阪ビジネス・パーク(OBP)

超高層ビルが建ち並ぶOBPも意外に緑が多い。街路樹、公開空地の植栽、途中階の屋上に設けられた緑のスペースなど、多彩な人工の緑が見られる。街開きから四半世紀が経ち、木々の生長も著しい。

普段何気なく通り過ぎていたる界限でも、少し目線を動かしてみると、さまざまな緑の空間が、地域の歴史に寄

り添いながら息づいていることに改めて気づかされる。

暮らしを縁取る
身近な緑との交わりの醍醐味

上町台地界限では、前項のコメントに見られるとおり、その歴史を物語るかのように、さまざまな暮らしを縁取ってきた多彩な樹木や緑地の姿が見られる。身近な緑との交わりは、上町台地に暮らす醍醐味とわかっていい。そうした交わりを豊かにする助けとなるのが、お茶やお弁当やゲームなど暮らしの中にあるちょっとした仕掛けの活用である。それらの仕掛けは、緑の背景にある歴史や生活文化との交感のツールといえる。ささやかな遊び心や工夫次第で、またたく間に身近な緑は日常の楽園となつて、そこに会した者たちに夢見る心や懐かしいときめきやおしゃべりの楽しみを惜しみなく与えてくれる。そこに、今を生きる人も、古に生きていた人も、時を越えてともに集って語り合えるような場、上町台地のコミュニティグリーンが立ち現れてくる。



図2 真田山陸軍墓地にて(2010年4月4日)



図3 長屋再生複合施設「惣」の屋根の上にて(2010年4月15日)

U・C・O・R・Oウインドウ・エキジビション11「日常の楽園 上町台地コミュニティグリーン紀行」では、日常の楽園の舞台、人々が集う依代となる緑、上町台地のコミュニティグリーンに着目し、上町台地ならではの興味あふれる身近な緑との交わりの醍醐味を紀行風に、写真と日記と川柳を組み合わせて構成し(※4)、暮らしを楽しむシーンとして紹介している。たとえば次のような具合である(図2〜4参照)。

■真田山陸軍墓地／4月4日(日)晴れ

緑あふれる墓苑に花見弁当を持って出かけ

上町台地にある遠い日の戦争の記憶、真田山陸軍墓地。ここは日本の近代化の波に消えた戦士が一人ひとり眠る地。でも木々と草っぱらに包まれた空間は、長年にわたって地域の子どもたちを育み、暮らしに緑の憩いも与えてきた。ご近所の人たちが花見に集まる満開の桜の下。家族や友と語り合う声を少し遠くに聴きながら、私たちも先人と一緒に盃を交わし、今の平和を喜び合った。「防人と桜花を愛でる和の日」

■楓ギャラリー／4月11日(日)曇りのち晴れ

ギャラリーの庭でついトランプを楽しんでしまった

(日記文略)「代々の想い樹に映えまちの庭」

■惣／4月15日(木)曇り時々雨

再生長屋の屋根に登って茶会に興してみた

(日記文略)「善良な暮らしが匂う草薺」

■玉造稲荷神社／5月3日(祝・月)晴れ

氏神さんの境内で子どもといなりずしを味わった

(日記文略)「お稲荷さんともに食べたし森狐」

■越中井／4月30日(金)晴れ

越中井の井戸端で、抹茶でほっこりしてみた

(日記文略)「殉節の玉に献じる茶の香り」

■広小路公園／4月30日(金)晴れ

ご近所の公園でちよつと重心に帰ってしまった

(日記文略)「春霞懐き遊具に少年を見ゆ」

■八軒家浜／4月28日(水)晴れ

今日は葉桜見える川辺に座ってボードゲーム

(日記文略)「若葉堤川辺と川面に立つ青濤」

■大阪商工会議所／4月28日(水)晴れ

今日のランチは近くの屋上庭園で

(日記文略)「昼餉する樹冠もかくす摩天楼」

■高津宮・高津の富亭／4月11日(日)曇りのち晴れ

富亭カフェでゆっくりおしゃべり

(日記文略)「木漏れ陽と笛の音もれる春の宮」

■歴博南側広場／4月30日(金)晴れ

オープン・スペースの木製デッキでおにぎりをごちそうになる

(日記文略)「薫風の米飯食う岬に難の波」

■大阪府庁／4月30日(金)晴れ

府庁本館屋上で緑化展示と絶景に見入ってから苦吟する

(日記文略)「太閤に届けみどりの侘びと寂び」

■NEXT21／5月4日(祝・火)晴れ

マンション屋上で春の芋煮会としやれ込んだ

(日記文略)「青葉濃い高き屋で食う夕の鍋」

時空を越えて、人と人、人とまちのつながりを媒介する、歴史と生活文化に根ざした緑の存在価値、コミュニティグリーンの奥行きと広がりを実感することができる。

第20話のおわりに

第20話では、上町台地ならではのつながりのスタイルのダイナミズムを媒介する重要なメディアとして、



図4 実験集合住宅NEXT21の屋上庭園にて(2010年5月4日)



図5 ドイツ・エアランゲンにて、宮殿庭園での文化イベントに集う
(撮影：高松平蔵氏)



図6 ドイツ・エアランゲンにて、
まちの周辺に広がる森で楽しみ学ぶ
(撮影：高松平蔵氏)



上町台地を特徴づける「緑」コミュニティグリーン存在価値を見つめた。関連して、U・C・O・R・O・ウインドウ・エキジビションII「日常の楽園上町台地コミュニティグリーン紀行」の展示が終盤を迎えた、2010年8月28日、特別ゲストを迎えてイベントを開催した。ドイツ・エアランゲン市で家族とともに暮らし、エコライフやまちづくりについて取材が続いている、ジャーナリスト・高松平蔵氏に、ドイツでのガーデンライフの様子を紹介いただいた(図5〜6)。かつて産業革命を経て19世紀に急激な都市化と生活環境の悪化を経験したヨーロッパの諸都市では、人間らしく健やかに暮らせる生活環境を市民の権利として求めた。その一環として、都市生活にあっても緑との交わりは欠かせないという認識に立った、まちづくりが行われてきた歴史が今に続いている。

高松氏は、自身のドイツ・エアランゲンでの暮らしを彩るさまざまな営みと、その舞台となっている緑のありようについて、自宅の庭での季節ごとの営みや家族の誕生日などの様子から、近所の公園の楽しみ方の数々、夏ともなれば家族で出かける近所のビアガーデン、広い芝生広場とともにあるプールや、まちの中心の宮殿庭園で繰り広げられる文化イベントの賑わい、そこに生まれる多くの交流などの価値にふれた。さらに、まちの周囲に広がる森で体験できる多様なアクティビティとそのためのプログラムや施設のありよう、コミュニティを支える教会やスポーツクラブの役割、また市民が園芸や野菜づくりを楽しむように、19世紀からまちの中に整備されていった小さな庭・クラインガルテンの様子などをいきいきと語った。そして、「都市の中に緑をつくる」ということは、都市の中に人間らしく健康に暮らせる環境を整備しようという発想。その実現に行政、NPO、個人が取り組み、結果的にコミュニティを関連にすることにもつながる」と締めくくった。

人々が集う依代となる魅力に富んだ緑の資源を持つ上町台地で、しっかりと受け止めていきたいメッセージである。

(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所特任研究員)

CEL

(※1) NEX T21第3フェーズ居住実験の一環として地域コミュニティプロジェクトの概要等は、季刊誌「CEL」83号・84号・86号・88号・89号・91号・92号・93号「大阪・上町台地発 都心居住文化の創造へ」第12話〜19話及びU・C・O・R・Oホームページで紹介している。
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/issue/cel/>

U・C・O・R・O エキジビションや関連イベントは、U・C・O・R・O プロジェクト・ワーキングが企画・運営している。2010年3月現在の同ワーキング・コアメンバーは、弘本由香里(大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所/上町台地からまちを考える会、橋本護(Brain)、早川厚志(まちづくり工房/からほり倶楽部/上町台地からまちを考える会)。

(※2) 「上町台地つながりのスタイルブック」は、U・C・O・R・O ホームページで紹介している。
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/cel/issue/cel/>

(※3) 主催：大阪ガスエネルギー・文化研究所(CEL)、企画：U・C・O・R・O プロジェクト・ワーキング、協力：オダギリサトシさん、三島啓子さん、山根秀宣さん、鈴木伸廣さん、西代官山クラブ、NEX T21入居者自治会、花村周寛さん、山内美陽子さん、そのほかのみなさま(50音順)

(※4) U・C・O・R・O ウインドウ・エキジビションII「日常の楽園上町台地コミュニティグリーン紀行」での、上町台地の特徴的な緑の解説コメント及び身近な緑との交わりの紀行文(日記や川柳)は、U・C・O・R・O プロジェクト・ワーキングのメンバー早川厚志氏が執筆。